



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 株式会社インプレスホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 9479 URL <https://www.impressholdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松本 大輔
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 山手 章弘 (TEL) 03-6837-5000 (代)
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	11,432	2.6	374	△61.0	461	△55.2	320	△66.3
2022年3月期第3四半期	11,141	6.2	960	0.7	1,030	0.2	952	57.7

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 346百万円(△62.9%) 2022年3月期第3四半期 931百万円(55.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	9.52	—
2022年3月期第3四半期	28.47	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	16,540	9,603	57.1
2022年3月期	15,732	9,233	58.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 9,446百万円 2022年3月期 9,227百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	6.50	6.50
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2022年3月期の年間配当金には、設立30周年の記念配当(期末配当につき1.00円)を含めております。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,400	4.2	600	△29.3	700	△25.7	550	△37.2	16.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) - 、除外 一社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.10「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期3Q	37,371,500株	2022年3月期	37,371,500株
2023年3月期3Q	3,539,699株	2022年3月期	3,914,423株
2023年3月期3Q	33,679,608株	2022年3月期3Q	33,449,536株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、事業セグメント区分及び主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

その他セグメントの株式会社PUBFUNは、2022年4月に当社の100%子会社である株式会社インプレスR&Dと株式会社メディアドゥを新設分割会社とする共同新設分割に伴い設立され、当社グループの子会社となりました。

また、2022年7月にグループの組織再編を行い、株式会社Impress Professional Worksは、全社機能を株式会社インプレスホールディングスに事業譲渡し、グループ共通の事業基盤(ビジネス・プラットフォーム)の構築・運営に特化した会社へ再編したことにより、称号を株式会社IPGネットワークに改め、その他セグメントに属することとなりました。

その他セグメントの株式会社シフカは、当社グループの持分法非適用の関連会社でしたが、2022年9月に当社が発行する株式を追加取得したことにより、当社グループの完全子会社となりました。

事業セグメント区分	主要な事業区分		主要な事業内容	主要な会社
IT (IT分野に関するコンテンツ事業及びプラットフォーム事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス、ターゲットメディア等	㈱インプレス ㈱IAD
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作	
	プラットフォーム事業		出版流通プラットフォームの開発・運営等	
音楽 (音楽分野に関するコンテンツ事業及びプラットフォーム事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	㈱リットーミュージック
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作	
	プラットフォーム事業		ECプラットフォーム・出版流通プラットフォームの開発・運営等	
デザイン (デザイン分野に関するコンテンツ事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	㈱エムディエヌコーポレーション
山岳・自然 (山岳・自然分野に関するコンテンツ事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	㈱山と溪谷社 ㈱原の小屋
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作、宿泊サービスの提供	
航空・鉄道 (航空・鉄道分野に関するコンテンツ事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	イカロス出版㈱ ㈱天夢人
		ソリューション	パートワーク等の受託制作	
モバイルサービス (モバイル関連のコンテンツ事業及びプラットフォーム事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	電子出版、ネットメディア・サービス等	㈱ICE
		ソリューション	電子書籍ファイルの受託制作	
	プラットフォーム事業		電子コミックプラットフォームの開発・運営等	
その他			出版・電子出版、企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作、ECプラットフォーム・出版流通プラットフォームの開発・運営、グループ各社の出版物流・販売管理等	㈱近代科学社 ㈱インプレスR&D ㈱PUBFUN ㈱クリエイターズギルド ㈱シフカ ㈱iDMP ㈱IPGネットワーク Impress Business Development(同)
全社			グループ経営・財務戦略の策定 グループ各社の経営管理	㈱インプレスホールディングス(当社)

(当第3四半期連結累計期間の業績全般の概況)

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものです。

また、文中の事業区分別売上高は、外部顧客への売上高を、事業セグメントの売上高は、セグメント間の内部振替高を含んだ売上高をそれぞれ記載し、セグメント損益は、営業損益をベースとしております。

当第3四半期連結累計期間につきましては、イカロス出版の業績を取り込んだことによる増収、ターゲットメディアのイベント収入の好調な推移はあったものの、前期にあった電子書店の大型キャンペーン等の反動により電子出版の販売が減少したことに加え、音楽アーティスト関連の大型ムック本の反動、巣ごもり需要の一巡による書籍の出荷減少等により、コンテンツ事業の売上高は前年同期（9,331百万円）に比べ0.5%増加に留まり、9,380百万円となりました。プラットフォーム事業につきましては、コンテンツホルダーとの協業による電子コミックプラットフォーム事業が好調に推移したことに加え、当期首に新設した株式会社PUBFUNにおいて、(株)メディアドゥとの協業が開始されたことで、売上高が前年同期（1,810百万円）に比べ13.3%増加し、2,051百万円となりました。

これらの結果、売上高は前年同期（11,141百万円）に比べ2.6%（290百万円）増加し、11,432百万円となりました。営業利益につきましては、増収も収益性の低下に加えて販売管理費が増加したことにより、前年同期（960百万円）に比べ586百万円減少し、374百万円となりました。経常利益につきましては、前年同期（1,030百万円）に比べ568百万円減少し、461百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前期にイカロス出版の子会社化に伴う負ののれんの発生により187百万円の特別利益を計上していた反動もあり、前年同期（952百万円）に比べ631百万円減少し、320百万円となりました。

(セグメント別の概況)

① IT

ITセグメントの売上高につきましては、前期にあった電子書店の大型キャンペーン等の反動やテレワーク需要等の一巡で電子出版及び書籍の販売が減少したことにより、出版・電子出版は前年同期（2,352百万円）に比べ6.9%減少し、2,190百万円となりました。また、デジタル総合ニュースサービス「Impress Watch」(<https://www.watch.impress.co.jp/>)において、巣ごもり需要の一巡によるPVの減少や不透明な景気動向が影響したことで広告収入が減少し、ネットメディア・サービスは前年同期（1,240百万円）に比べ5.8%減少し、1,168百万円となりました。一方で、ターゲットメディアは、イベント収入が好調に推移したことにより、前年同期（886百万円）に比べ7.9%増加し、956百万円となりました。ソリューション事業においては、国内受託案件の減少等により、前年同期（334百万円）に比べ20.0%減少し、267百万円となりました。これらの結果、コンテンツ事業の売上高は前年同期（4,814百万円）に比べ4.8%減少し、4,583百万円となりました。

また、プラットフォーム事業につきましては、パートナー出版社の電子出版及び書籍の販売が増えたことで、売上高は前年同期（197百万円）に比べ2.0%増加し、201百万円となりました。

以上により、「IT」の売上高は、前年同期（5,038百万円）比4.5%減の4,812百万円となりました。セグメント利益は、減収と収益性の低下に加えて販売管理費が増加したことにより、前年同期（981百万円）と比べ250百万円減少し、731百万円となりました。

② 音楽

音楽セグメントの売上高につきましては、書籍が刊行点数の増加等により増収したものの、前期の音楽アーティスト関連の大型ムック本の反動による減少やソリューション事業及びデジタル広告の減少を補いきれず、コンテンツ事業の売上高は前年同期（1,176百万円）に比べ10.8%減少し、1,049百万円となりました。

また、プラットフォーム事業につきましては、楽器マーケットプレイス「デジマート」(<https://www.digimart.net/>)における楽器店からの決済サービス収入が増加したものの、パートナー出版社の出版物の販売が減少したことにより、売上高は前年同期（359百万円）に比べ3.1%減少し、347百万円となりました。

以上により、「音楽」の売上高は、前年同期（1,547百万円）比9.5%減の1,400百万円となりました。セグメント利益は、大幅な減収と収益性の低下により、前年同期（145百万円の利益）と比べ224百万円利益が減少し、78百万円の損失となりました。

③ デザイン

デザインセグメントの売上高につきましては、季節商品のカレンダーが刊行点数の増加により増収となったものの、書籍レーベル「立東舎」を音楽セグメントへ移管したことにより、コンテンツ事業は減収となりました。

以上により、「デザイン」の売上高は、前年同期（812百万円）比8.2%減の746百万円となりました。セグメント利益では、販売管理費が減少したものの減収と収益性の低下により、前年同期（13百万円の損失）と比べ損失が53百万円増加し、67百万円の損失となりました。

④ 山岳・自然

山岳・自然セグメントの売上高につきましては、前期の電子書店の大型キャンペーンと書籍やムック本の大型刊行による反動等により、コンテンツ事業は減収となりました。

以上により、「山岳・自然」の売上高は、前年同期（1,507百万円）比12.1%減の1,324百万円となりました。セグメント利益では、減収と収益性の低下に加えて販売管理費が増加したことにより、前年同期（147百万円）と比べ110百万円利益が減少し、36百万円となりました。

⑤ 航空・鉄道

航空・鉄道セグメントの売上高につきましては、イカロス出版の業績を取り込んだことにより、コンテンツ事業は大幅な増収となりました。

以上により、「航空・鉄道」の売上高は、前年同期（471百万円）比115.0%増の1,013百万円となりました。セグメント利益では、増収に加えて収益性が改善したものの、収益構造の見直し過程にあるイカロス出版が、営業損失を計上したこと等も影響し、前年同期（56百万円の損失）と比べ36百万円損失が増加し、92百万円の損失となりました。

⑥ モバイルサービス

モバイルサービスの売上高につきましては、電子出版が堅調に推移したことにより、コンテンツ事業の売上高は前期（150百万円）と比べ2.7%増加し、154百万円となりました。

プラットフォーム事業につきましては、コンテンツホルダーとの協業によるデジタルコミック等の販売プラットフォームの大幅な増収により、売上高は前期（1,097百万円）と比べ13.2%増加し、1,242百万円となりました。

以上により、「モバイルサービス」の売上高は、前年同期（1,251百万円）比12.1%増の1,402百万円となりました。セグメント利益では、販売管理費が増加したものの、増収により、前年同期（236百万円）と比べ77百万円増加し、313百万円となりました。

⑦ その他

グループの組織再編に伴い、(株)Impress Professional Worksは称号を(株)IPGネットワークに改め、グループ共通の事業基盤（ビジネス・プラットフォーム）の構築・運営に特化した会社へ再編したことにより、第2四半期会計期間よりその他セグメントに属することとなりました。

その他セグメントにつきましては、(株)IPGネットワークの業績を取り込んだことに加えて、(株)メディアドゥとの協業の開始により、出版社・法人向けPOD出版プラットフォームサービス「PUBRID」の業績を取り込んだことで、売上高は前年同期（627百万円）比76.7%増の1,109百万円となりました。セグメント利益では、増収に加えて収益性が改善したものの、販売管理費が増加したことにより、前年同期（5百万円の損失）と比べ11百万円損失が増加し、16百万円の損失となりました。

⑧ 全社

全社区分につきましては、(株)Impress Professional Worksがグループの組織再編に伴いその他セグメントに属することとなったため、第2四半期連結会計期間から純粋持株会社である当社のみが属しており、グループ会社からの配当、情報システム等の経営インフラ使用料の手数料収入や経営管理業務の受託を売上高として計上し、経営インフラ等の運営に係る費用を負担しております。

全社区分の売上高は、グループ会社からの配当収入が増加したものの、組織再編に伴う事業譲渡による減収により、前年同期（1,732百万円）比3.1%減の1,678百万円となりました。セグメント利益では、販売管理費が減少したものの減収により、前年同期（283百万円）と比べ10百万円減少し、273百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、PUBFUNの共同新設分割によるのれんの計上や季節的変動要因による売掛金及び棚卸資産が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ807百万円増加し、16,540百万円となりました。

負債につきましては、有利子負債の返済や賞与の支払いによる賞与引当金の減少があったものの、季節的変動要因による仕入債務等の増加や返金負債の増加等により、前連結会計年度末に比べ438百万円増加し、6,937百万円となりました。

純資産につきましては、配当金の支払いによる減少があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により、前連結会計年度末に比べ369百万円増加し、9,603百万円となりました。

自己資本は9,446百万円となり、自己資本比率は57.1%と前連結会計年度末（58.7%）と比べ1.5ポイント減となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、上半期の業績が当初の業績予想を下回ったことを受け、業績のリカバリー施策とともに、2022年11月4日付で通期の連結業績予想を下方に修正しております。

当第3四半期連結会計期間につきましては、プラットフォーム事業が堅調な推移を持続したことに加え、デジタル広告も若干持ち直す動きとなったものの、出版事業において、出荷の伸び悩みが継続し、リカバリー施策で想定していた新刊の刊行遅れの挽回も第4四半期にずれ込む動きとなった影響で、予想を下回る業績動向となりました。

第4四半期連結会計期間につきましては、新刊の刊行遅れを挽回する動きで、前年同期を上回る業績見通しではありますが、出版販売・広告収入の動向に不透明感を残す状況で、公表済みの業績予想に対しては弱含みに推移する業績リスクを抱えております。

上記状況から、現時点では通期の業績予想は据え置きとしておりますが、業績リスクが顕在化した場合は、速やかに業績予想の修正を行います。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,316,829	5,398,612
受取手形、売掛金及び契約資産	4,412,175	5,741,100
商品及び製品	1,319,700	1,413,607
仕掛品	212,375	185,828
返品資産	245,392	209,064
その他	927,774	1,111,490
貸倒引当金	△704	△1,073
流動資産合計	13,433,542	14,058,630
固定資産		
有形固定資産	508,467	457,328
無形固定資産		
ソフトウェア	210,446	263,425
のれん	—	135,791
その他	14,525	14,976
無形固定資産合計	224,972	414,192
投資その他の資産		
投資有価証券	687,192	733,827
繰延税金資産	397,023	404,700
その他	481,671	471,981
投資その他の資産合計	1,565,887	1,610,508
固定資産合計	2,299,327	2,482,030
資産合計	15,732,870	16,540,660
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,595,062	1,801,200
短期借入金	350,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	125,000	106,250
未払法人税等	136,864	15,176
返金負債	518,824	985,041
賞与引当金	242,412	31,781
役員賞与引当金	89	31,789
その他	1,803,164	1,825,752
流動負債合計	4,771,418	5,146,990
固定負債		
長期借入金	137,500	93,750
繰延税金負債	22	18
退職給付に係る負債	1,464,180	1,573,640
長期末払金	65,712	63,318
その他	60,093	59,416
固定負債合計	1,727,508	1,790,144
負債合計	6,498,927	6,937,134

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,341,021	5,341,021
資本剰余金	1,656,260	1,683,480
利益剰余金	2,991,166	3,094,372
自己株式	△698,003	△631,271
株主資本合計	9,290,444	9,487,603
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,057	△83
退職給付に係る調整累計額	△60,482	△41,101
その他の包括利益累計額合計	△62,539	△41,185
非支配株主持分	6,038	157,107
純資産合計	9,233,943	9,603,525
負債純資産合計	15,732,870	16,540,660

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	11,141,861	11,432,790
売上原価	6,646,954	7,214,613
売上総利益	4,494,907	4,218,176
販売費及び一般管理費	3,534,264	3,843,777
営業利益	960,642	374,399
営業外収益		
受取利息	12	10
受取配当金	649	1,205
持分法による投資利益	70,831	75,438
為替差益	—	2,019
その他	8,802	12,235
営業外収益合計	80,296	90,908
営業外費用		
支払利息	8,214	3,419
為替差損	393	—
子会社清算損	1,585	—
その他	684	224
営業外費用合計	10,878	3,643
経常利益	1,030,060	461,664
特別利益		
段階取得に係る差益	—	21,415
負ののれん発生益	187,179	7,665
為替換算調整勘定取崩益	50,626	—
特別利益合計	237,806	29,081
特別損失		
固定資産除却損	3,633	8,718
特別損失合計	3,633	8,718
税金等調整前四半期純利益	1,264,233	482,027
法人税、住民税及び事業税	313,027	157,673
法人税等調整額	△1,779	△394
法人税等合計	311,248	157,279
四半期純利益	952,984	324,747
非支配株主に帰属する四半期純利益	797	4,069
親会社株主に帰属する四半期純利益	952,187	320,677

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
四半期純利益	952,984	324,747
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,460	1,973
為替換算調整勘定	△35,124	—
退職給付に係る調整額	17,453	19,381
その他の包括利益合計	△21,131	21,354
四半期包括利益	931,853	346,101
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	931,056	342,031
非支配株主に係る四半期包括利益	797	4,069

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	調整額 (注) 3	四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	I T	音楽	デザイン	山岳・自然	航空・鉄道	モバイル サービス	計			
売上高										
コンテンツ事業	4,814,777	1,176,474	795,953	1,495,948	463,237	150,831	8,897,222	434,258	—	9,331,480
メディア& サービス事業	4,480,060	1,052,268	795,953	1,451,896	417,007	100,414	8,297,600	172,556	—	8,470,156
出版・電子出版	2,352,750	937,169	775,573	1,402,862	414,599	100,235	5,983,191	172,556	—	6,155,748
ネットメディア ・サービス	1,240,787	115,098	20,379	49,033	2,407	178	1,427,886	—	—	1,427,886
ターゲット メディア	886,521	—	—	—	—	—	886,521	—	—	886,521
ソリューション 事業	334,716	124,206	—	44,051	46,230	50,417	599,622	261,701	—	861,323
プラットフォーム 事業	197,714	359,023	—	—	—	1,097,060	1,653,798	156,582	—	1,810,380
顧客との契約から 生じる収益	5,012,492	1,535,498	795,953	1,495,948	463,237	1,247,891	10,551,021	590,840	—	11,141,861
外部顧客への売上高	5,012,492	1,535,498	795,953	1,495,948	463,237	1,247,891	10,551,021	590,840	—	11,141,861
セグメント間の内部売 上高又は振替高	25,949	11,769	16,853	11,089	8,133	3,193	76,988	37,095	△114,083	—
計	5,038,441	1,547,267	812,806	1,507,038	471,371	1,251,084	10,628,010	627,935	△114,083	11,141,861
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	981,697	145,822	△13,676	147,525	△56,322	236,772	1,441,818	△5,199	△475,975	960,642

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版・電子出版、企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作、出版流通プラットフォームの開発・運営等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、調整を行い、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又はセグメント損失の調整額△475,975千円には、セグメント間の内部売上高の取引消去△114,083千円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,399,979千円、セグメント間の営業費用の取引消去1,038,087千円が含まれております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第2四半期連結会計期間より、「航空・鉄道」において、イカロス出版株式会社を株式取得により連結子会社としたことに伴い、連結の範囲に含めております。

これに伴い、前連結会計年度末に比べて、当第3四半期連結会計期間末の「航空・鉄道」におけるセグメント資産が、1,950,790千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「航空・鉄道」において、イカロス出版株式会社を株式取得により連結子会社としたことに伴い、187,179千円の負ののれん発生益を特別利益に計上しております。

なお、当該負ののれん発生益はセグメント利益に含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	調整額 (注) 3	四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	I T	音楽	デザイン	山岳・自然	航空・鉄道	モバイル サービス	計			
売上高										
コンテンツ事業	4,583,262	1,049,421	731,853	1,314,041	1,005,660	154,939	8,839,178	541,707	—	9,380,886
メディア& サービス事業	4,315,598	961,113	731,853	1,249,735	957,481	104,273	8,320,055	165,336	—	8,485,392
出版・電子出版	2,190,610	872,995	719,668	1,195,097	939,798	104,273	6,022,443	164,203	—	6,186,647
ネットメディア ・サービス	1,168,611	88,117	12,185	54,638	17,683	—	1,341,235	1,132	—	1,342,368
ターゲット メディア	956,375	—	—	—	—	—	956,375	—	—	956,375
ソリューション 事業	267,664	88,308	—	64,305	48,178	50,666	519,122	376,371	—	895,493
プラットフォーム 事業	201,767	347,966	—	—	—	1,242,364	1,792,098	259,806	—	2,051,904
顧客との契約から 生じる収益	4,785,029	1,397,388	731,853	1,314,041	1,005,660	1,397,304	10,631,276	801,513	—	11,432,790
外部顧客への売上高	4,785,029	1,397,388	731,853	1,314,041	1,005,660	1,397,304	10,631,276	801,513	—	11,432,790
セグメント間の内部売 上高又は振替高	27,126	3,082	14,293	10,248	7,962	5,533	68,247	307,758	△376,006	—
計	4,812,155	1,400,470	746,146	1,324,289	1,013,623	1,402,838	10,699,524	1,109,272	△376,006	11,432,790
セグメント利益又は セグメント損失(△)	731,450	△78,605	△67,176	36,898	△92,811	313,968	843,724	△16,927	△452,397	374,399

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版・電子出版、企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作、ECプラットフォーム・出版流通プラットフォームの開発・運営、グループ各社の出版物流・販売管理等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、調整を行い、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又はセグメント損失の調整額△452,397千円には、セグメント間の内部売上高の取引消去△376,006千円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,324,014千円、セグメント間の営業費用の取引消去1,247,623千円が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第2四半期連結会計期間において、株式会社Impress Professional Worksは、グループの組織再編に伴い、全社機能を株式会社インプレスホールディングスに事業譲渡しました。譲渡した全社機能については引き続き調整額に含めております。また、株式会社Impress Professional Worksは、グループ共通の事業基盤(ビジネス・プラットフォーム)の構築・運営に特化した会社へ再編したことにより、称号を株式会社IPGネットワークに改め、「その他」に含めております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。